

桶狭間合戦

道三時代の美濃と隣国

This map illustrates the political landscape of Owari Province during the Sengoku period. It shows the locations of numerous castles, including:

- 飛騨 (Hida)
- 信濃 (Shinano)
- 美濃 (Mino)
- 越前 (Echizen)
- 越後 (Echigo)
- 近江 (Owari)
- 伊勢 (Ise)
- 三河 (Sanwa)
- 尾張 (Tōtōshi)

Key castles and their lords are labeled:

- 一乗谷館 (Ichinoyanaka)
- 朝倉氏 (Chosho)
- 浅井氏 (Asai)
- 京極氏 (Kyonogi)
- 大桑城 (Ogawa Castle)
- 鶴山 (Tsuru-yama)
- 長良川 (Nagara River)
- 揖斐川 (Izumi River)
- 曾根城 (Sone Castle)
- 大垣城 (Ogaki Castle)
- 上平寺城 (Jōhōji Castle)
- 小谷城 (Komatsu Castle)
- 那古野城 (Nagoya Castle)
- 勝幡城 (Katsurabayashi Castle)
- 那古渡城 (Nagoya-no-shiro)
- 觀音寺城 (Kannonji Castle)
- 六角氏 (Rokkaku)
- 織田氏 (Oda)
- 尾張氏 (Tōtōshi)
- 金山城 (Kinkan Castle)
- 久々利城 (Kukuryo Castle)
- 安祥城 (Ansō Castle)
- 伊勢湾 (Ise Bay)
- 伊勢川 (Ise River)
- 境川 (Kage River)
- 三河川 (Mikawa River)
- 庄内川 (Yamagata River)
- 伊勢湾 (Ise Bay)
- 宮山 (Miyajima)
- 安祥城 (Ansō Castle)

『週刊 新説 戦乱の日本史 美濃国盗り物語』(小学館 2008年)より

『週刊 新説 戦乱の日本史 美濃国盗り物語』(小学館 2008年)より

鳴海城跡 名古屋市緑区鳴海町城

国史跡 大高城跡 名古屋市緑区大高町城山

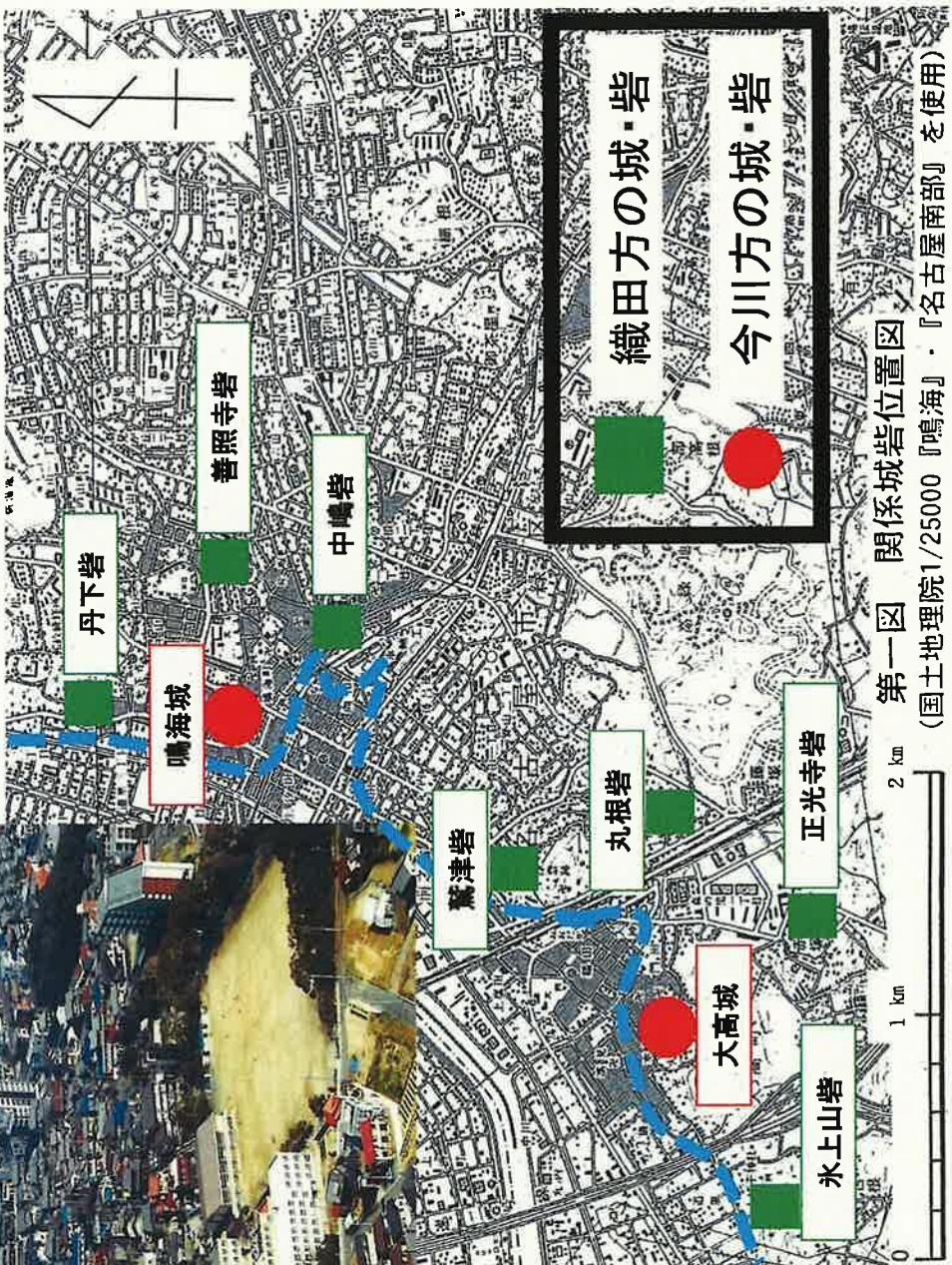
**戦国時代の尾張国・桶狭間合戦直前の勢力図
『城からのぞむ 尾張の戦国時代』(名古屋市博物館 2007年)**

This map shows the territories of the Oda clan (red) and the Tōtōshi clan (yellow) in Owari Province. Key locations marked include:

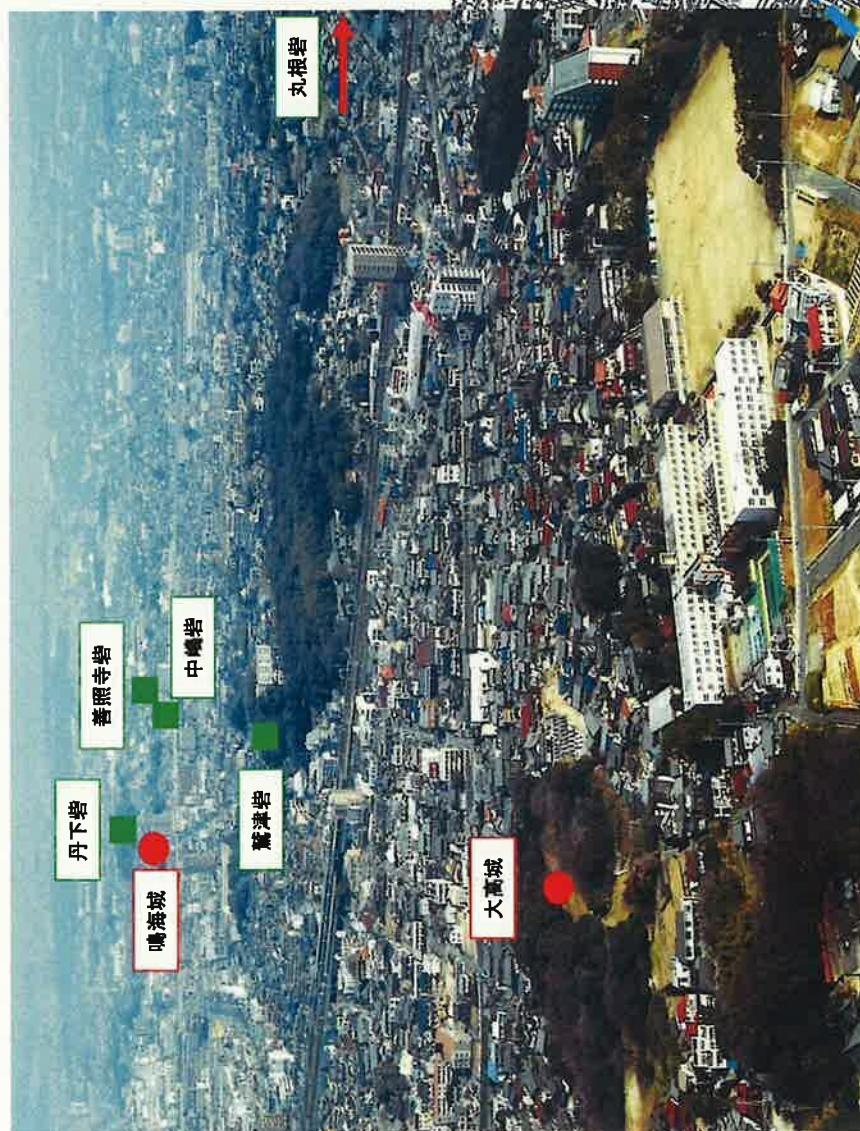
- 清須城 (Kiyosue Castle)
- 那古野城 (Nagoya Castle)
- 古津城 (Kotsubo Castle)
- 丹下砦 (Tani-shabetsu)
- 善照寺砦 (Zenjōji-shabetsu)
- 中島砦 (Nakajima-shabetsu)
- 那古島砦 (Nagashima-shabetsu)
- 丸根砦 (Marugen-shabetsu)
- 沓掛城 (Tatsumaki Castle)
- 丸根砦 (Marugen-shabetsu)
- 大高城 (Ōtakayama Castle)
- 庄内川 (Yamagata River)
- 伊勢湾 (Ise Bay)
- 境川 (Kage River)
- 三河川 (Mikawa River)
- 境川 (Kage River)
- 安祥城 (Ansō Castle)
- 村木砦 (Muraki-shabetsu)
- 緒川城 (Otsukayama Castle)
- 刈谷城 (Kiwata Castle)



善照寺砦跡 名古屋市緑区鳴海町



国史跡 丸根砦跡 名古屋市緑区大高町丸根



第一図 関係城砦位置図
(国土地理院1/25000『鳴海』・『名古屋南部』を使用)

1 km
2 km
0

備 天文廿一年壬子五月十七日、

一、今川義元沓懸へ参陣。十八日夜に入り、大高の城へ兵糧入れ、助けなき様に、十九日朝塙の満干を歎かへ、取出を払ふべき旨必定と相聞え候の由、十八日夕方に及んで佐久間大学・織田文蕃かたより御注進申上候處、其夜の御はなし、軍の行は努力これなく、色々世間の御経談迄にて、既に深更に及ぶの間帰宅候へと御暇下さる。家老の衆申す所、連の末には智慧の鏡も説くとは此節なりて、各嘲嘆候て罷端へられ候。案のことく夜明けがたに、佐久間大学・織田文蕃かたより早朝津山・丸根山へ人数取りかけ候由、追々御注進これあり。此時、信長致盛の舞を遣し候。人間五十年、下天の内をくらがれば、夢幻のこととなり。一度生を得て滅せぬ者あるべきか、と候て、駆け足よこせよと仰せられ、御物具めざれ、たちながら御食をまいり、御申をめし候て御出陣なさる。其時の御伴には御小姓衆、岩谷長門守・長谷川橋介・佐藤藤八・山口飛彈守・賀藤藤三郎、是等主従六騎、あつた迄三里一時にかけさせられ、辰巳に源太殿宮のまへより東を御隨じ候へば、鶴津・丸根落去と覚しくて、煙上り候。此時馬上六騎・難兵三百ばかりなり。手振り御出で候へば、程近く候へども塙満ちし入り、御馬の通りこれなく、熟田よりかみ道を、もみにもんで懸けさせられ、先だんけの御取出へ御出で候て、夫より源照寺・佐久間守の取由へ御出でありて、御人數立てられ、難兵捕へさせられ、機知御せり。

街發今川義元は四万五千引率し、おけはさき山に入馬の息を休めござり。

天文廿一年壬子五月十九日午刻、改めて向て人数を齧へ、鶴津・丸根改落して満足これに過ぐべからず、の由候て、脇を三番うたはせられたる由候。今度家康は朱武者にて先懸をさせられ、大高へ兵糧入れ、鶴津・丸根にて手を碎き、御辛勞なされたるに依て、人馬の息を休め、大高に居廻なり。

信長源照寺へ御出でを見申し、佐々隼人正・千秋四郎二首、人数三百ばかりにて義元へ向て足輕に派出で候へば、壇とかゝり来て、劍下にて千秋四郎・佐々隼人正初めとして五十騎ばかり討死院。是を見て、義元が尤には天魔鬼神も恐べからず。心地はよしと惜で、縫ぐどして腰をうたはせ呻を居られ候。

信長御覽じて、中嶋へ御移り候は心と嘆つるを、脇は深田の足入、一騎打うちの道なり。無勢の様跡敵方よりさだかに相見え候。御勿体なきの由、家老の衆御馬の巻の引手に取付きて、声々に申され候へども、より切つて中嶋へ御移り候。此時一千に足らざる御人數の由申候。中嶋より又御人數出だされ候。今度は無理にすがり付き、止め申され候へども、爰にての御詫には、各よく／＼旅り候。あの武者、實に兵糧つかひて夜もすがら来り、大高へ兵糧入れ、鶴津・丸根にて手を碎き、辛勞してつかれたる武者なり。こなたは新手なり。其上小室ニシテ大敵ヲ怖ル、コト莫カレ、運へ天ニ在り、此詫は知らざる哉。轡らばひけ、しりぞかば引付くべし。是非に柳倒し、油断すべき事案の内なり。分捕をなすべからず、打捨たるべし。軍に勝ちぬれば此場へ乗つたる者は家の面目、末代の高名たるべし。只勵むべしと御詫の處に。

前田又左衛門・毛利河内・毛利十郎・木下雅楽助・中川金右衛門・佐久間秀太郎・森小介・安兵衛太郎・魚住隼人、

右の衆手々に頸を取り持ち参られ候。右の趣一々仰聞かさせられ、山際通御人數をられ候の外、俄に急箭石水を投打つ様に、敵の轡に打付くる。身方は後の方に降りかかる。沓懸の倒下の松の木に、二かい・三かるの桶の木、兩に東へ倒れる。余りの事に熟田大明

神の神軍かと申候なり。空聞するを御願ひ、個長鎧をおつ取て大音声を上げて、すはかゝれ／＼と仰せられ、黒煙立てゝ懸るを見て、水さざくがごとく後ろへくはつと崩れたり。弓・鉄・銃炮・のはり・さし物・剣を乱すに異ならず。

今川義元の遺訓も捨てつけられけり。

天文廿一年壬子五月十九日、

斯本は是なり。是へ懸れと御下知あり。未刻東へ向てかゝり給ふ。初めは三百騎ばかり義丸になつて、義元を睨み退きけるが、二・三度、四・五度繰り合せく、次第々々に無人になりて、後に五十五騎ばかりになりたるなり。

信長も下立つて、若武者共に先を争ひ、つき伏せ、つき倒はし、いらつたる若もの共、亂れかゝつてじのぎをけづり、鎧をわり、火花をちらし火薬をふらす。然りといへども、敵身方の武者、色は相まざります。空にて御馬廻・御小姓衆々手負・死人負を知らず。服部小平太・義元にかゝりあひ、膝の口きられ倒伏す。毛利新介・義元を伐取せ顎をとる。足偏に先年滑洲の城において、武衛様を悉く攻殺し候の時、御會弟を一人捕り、助け申され候。其実加怒う米つて、義元の頭をとり給ふと人々聞候なり。運の尽きたる駄にや。おけばはざまと云ふ所は、はざまくてみ、深田足入れ、高みひきみ茂り、筋所と云ふ限りなし。深田へ逃入る者は所をさらすはいづりまばるを、若者ども追付き／＼二つ・三つ宛手々に顎をとり持ち、御前へ參り候。顎は何れも滑潤にて御実被と仰出だされ、よしもとの顎を御躰じ、御満足餘めならず。もと御出で候道を御躰候なり。

奥野高広・岩沢源彦校注『信長公記』

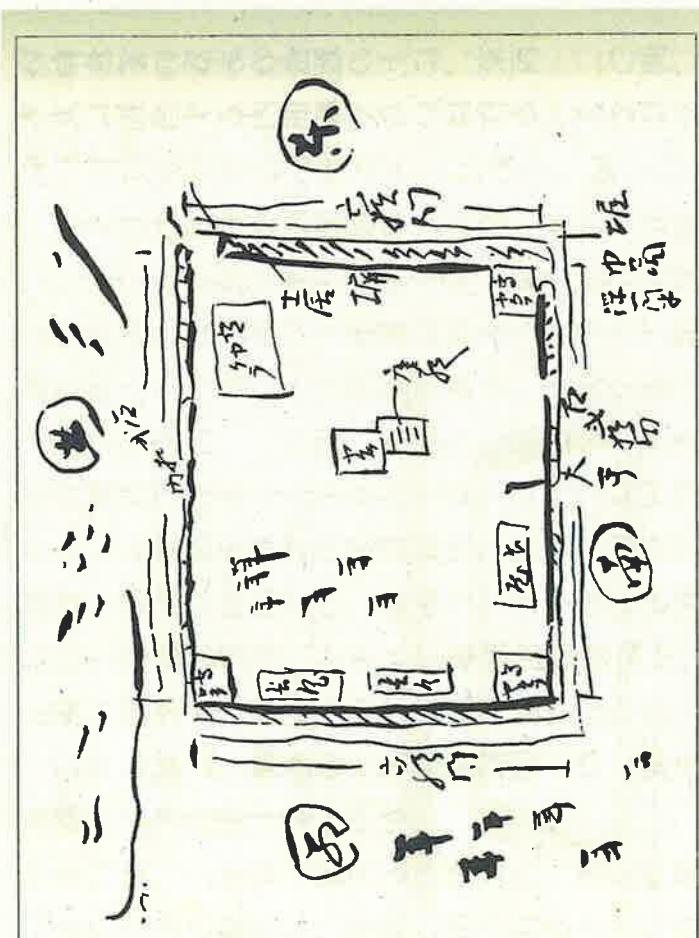
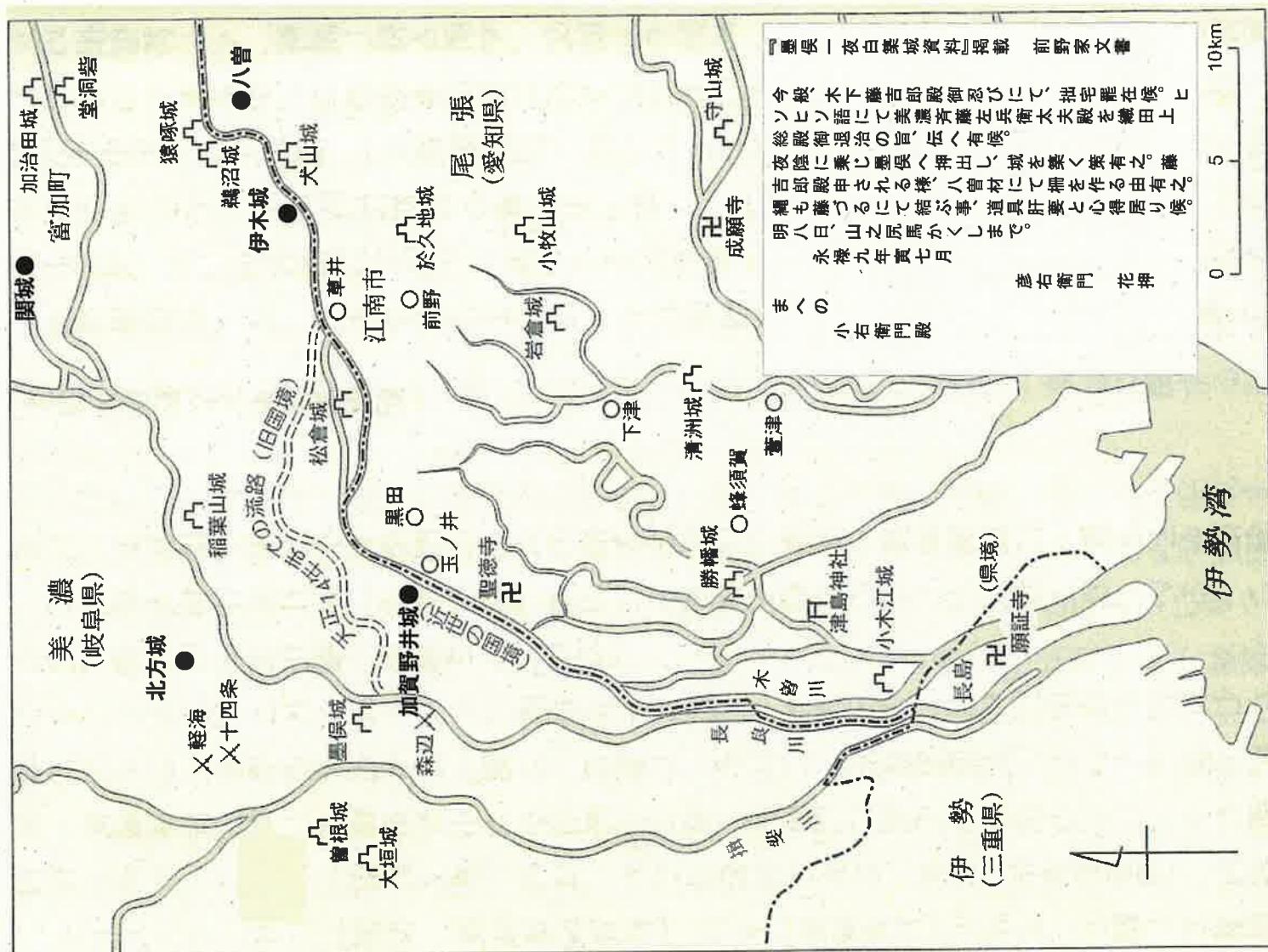
(角川文庫 昭和四十六年)



今川軍・織田軍の推定進軍図

『新説戦乱の日本史10 桶狭間の戦い』

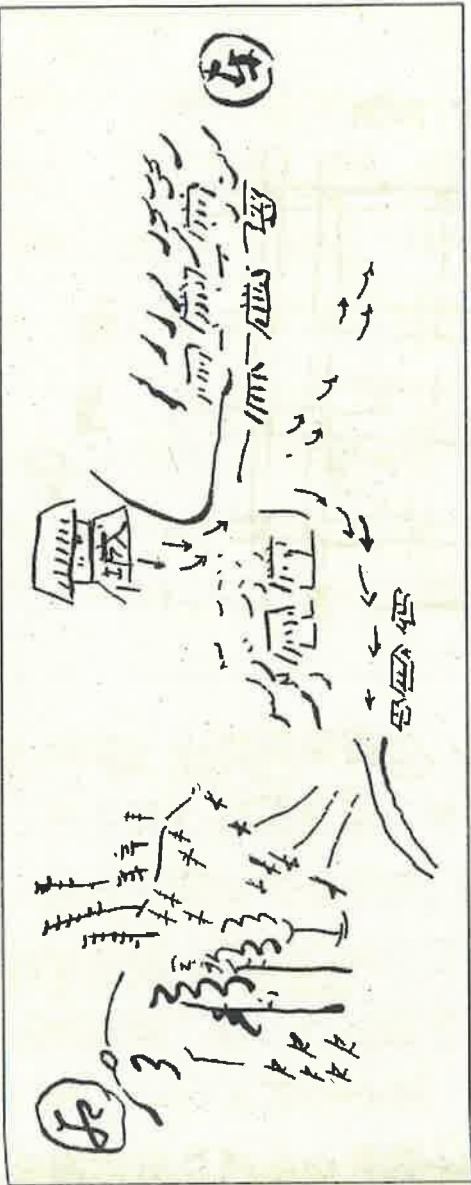
(小学館 一〇〇八年) より



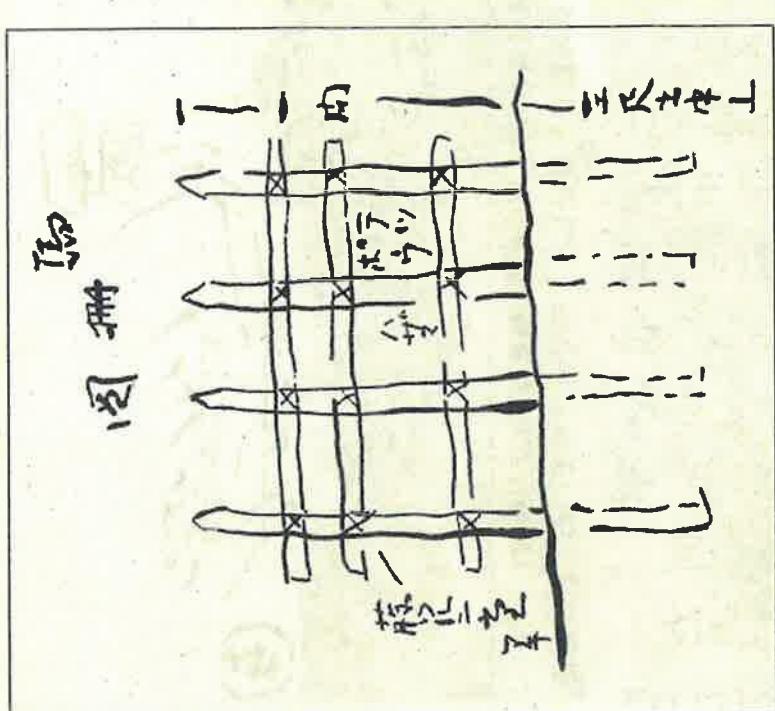
『永暦洲俣記』に描かれた墨俣一夜城

いずれも、藤本正行・鈴木真哉著『偽書『武功夜話』の研究』
(群旗社二〇〇一年四月二十日)

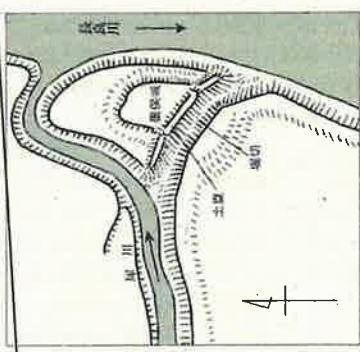
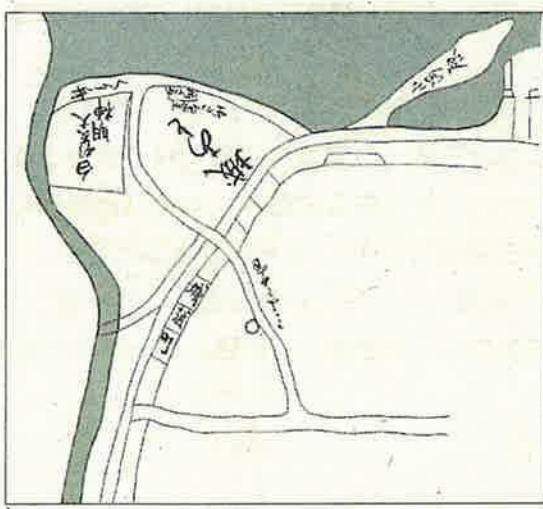
(洋泉社 二〇〇二年四月二十日) より転載。



『永禄洲侯記』に描かれた墨俣一夜城下放火の図



『永禄洲侯記』に描かれた墨俣一夜城馬柵



墨俣城復元模式図



墨俣城模擬天守 岐阜県大垣市墨俣町

「墨俣宿絵図」にみる墨俣城

